

12-2 労働力の価値は、平均労働者の習慣的に必要な生活手段の価値によって規定されている。

「労働力の価値は、平均労働者の習慣的に必要な生活手段の価値によって規定されている。この生活手段の形態は変動するかもしれないが、その量は、一定の社会の一定の時代には与えられており、したがって不変量として取り扱われてよい。変動するものは、この量の価値である。そのほかに二つの要因が労働力の価値規定に参加する。一方には、生産様式につれて変わる労働力の育成費があり、他方には、労働力の自然的相違、すなわち、男か女か、成熟しているか成熟していないかという相違がある。これらのいろいろに違った労働力の使用もまた生産様式によって制約されているのであるが、この使用は労働者家族の再生産費と成年男子労働者の価値とについての大きな相違を生じさせる。」

(大月版『資本論』② P673F2-8 )